



19歳笹生V

全米女子OP 史上最年少

畑岡とのプレリーオフ制す



ゴルフの全米女子オープン選手権でメジャー初優勝を果たし、笑顔でトロフィーを手にする笹生優花=6日、オリンピック・クラブ(Getty共同)

【サンフランシスコ共同】女子ゴルフの笹生優花が6日、サンフランシスコのオリンピック・クラブで行われた全米女子オープン選手権で畑岡奈紗とのプレリーオフを制して優勝した。女子

最高峰の大会で、史上最年少タイの19歳11カ月17日。日本人の父とフィリピン人の母を持つ大器が、76回の歴史を誇る舞台の歴史に初めて名を刻んだ。日本女子のメジャー制覇

は1977年全米女子プロ選手権の樋口久子、2019年全英女子オープンの渋野日向子に続き3人目。笹生は日本国籍も持つが今大会はフィリピンの選手としてプレリーし、東京五輪も母

の母国の代表となる見込み。力強いショットで日本ツアー参戦1年目の昨年に2勝を挙げた。

男子では4月に松山英樹がマスターズ・トーナメントで日本男子初のメジャー制覇を果たしたばかりで、ゴルフ界に快挙が続いた。

本当に信じられない

笹生優花の話 本当に信じられない。最初は(崩れて)本当にかっかりした。キャディーがまだチャンスはあると言ってくれた。とにかく家族にありがとう言いたい。彼らがいなければ私はここにいなかった。

笹生 優花(さそう・ゆうか) 父・正和さんの影響で8歳でゴルフを始め、母の出身地フィリピンを拠点に各国のジュニア大会で活躍。2018年アジア大会はフィリピン代表として個人と団体の2冠に輝いた。19年11月に日本ツアーのプロテスト合格。尾崎将司の指導も受けて腕を磨き20年はツアー12勝。タガログ語や英語も話す。東京・代々木高出。166センチ、63キロ、19歳。